

令和6年産 大豆栽培ごよみ

JAふくおか嘉穂
飯塚普及指導センター

月旬	6月		7月			8月			9月			10月			11月																																					
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																			
期生間育	← 播種 →					← 開花期 →			← 莢伸長期 →			← 子実肥大期 →			← 成熟期 →																																					
主な作業	◎ 排水対策（額縁明きよ・弾丸暗きよ） ◎ 土壤改良資材施用 ◎ 耕起・施肥 ◎ 種子消毒 ☆ 草が多い場合は耕起前に除草剤散布 ◎ 播種・除草剤散布 ◎ 中耕・培土① ◎ 中耕・培土②					◎ 発生初期のアサガオ ◎ マルバアメリカアサガオの花 ◎ 畦間かん水（ほ場が白乾する時） ◎ 病害虫防除（補正） ・ハスモンヨトウ			◎ 病害虫防除（開花20日後） ◎ 病害虫防除（開花30日後） ◎ 雑草・青立ち株の除去 ◎ コンバイン収穫			◎ 病害虫防除（補正） ◎ 雑草・青立ち株の除去 ◎ コンバイン収穫			◎ 病害虫防除（補正） ◎ 雑草・青立ち株の除去 ◎ コンバイン収穫																																					
	中耕・培土① 本葉2~3枚の頃 （播種後15日頃） 子葉が隠れる程度					中耕・培土② 本葉5~6枚の頃 （播種後25日頃）			◎ 発生初期のアサガオ ◎ マルバアメリカアサガオの花 ◎ 畦間かん水（ほ場が白乾する時） ◎ 病害虫防除（補正） ・ハスモンヨトウ			◎ 病害虫防除（開花20日後） ◎ 病害虫防除（開花30日後） ◎ 雑草・青立ち株の除去 ◎ コンバイン収穫			◎ 病害虫防除（補正） ◎ 雑草・青立ち株の除去 ◎ コンバイン収穫																																					
<table border="1"> <caption>フクユタカの品種特性</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">播種日</th> <th rowspan="2">株数</th> <th rowspan="2">開花期</th> <th rowspan="2">成熟期</th> <th rowspan="2">耐倒伏性</th> <th colspan="3">耐病性</th> <th rowspan="2">10a収量</th> <th rowspan="2">品質</th> <th rowspan="2">百粒重</th> </tr> <tr> <th>葉焼病</th> <th>褐斑病</th> <th>紫斑病</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7・10</td> <td>7.1</td> <td>8・19</td> <td>11・3</td> <td>中</td> <td>強</td> <td>強</td> <td>強</td> <td>kg</td> <td>中の上</td> <td>g</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>339</td> <td></td> <td>30.9</td> </tr> </tbody> </table>																	播種日	株数	開花期	成熟期	耐倒伏性	耐病性			10a収量	品質	百粒重	葉焼病	褐斑病	紫斑病	7・10	7.1	8・19	11・3	中	強	強	強	kg	中の上	g									339		30.9
播種日	株数	開花期	成熟期	耐倒伏性	耐病性			10a収量	品質	百粒重																																										
					葉焼病	褐斑病	紫斑病																																													
7・10	7.1	8・19	11・3	中	強	強	強	kg	中の上	g																																										
								339		30.9																																										

備考	I 土壤改良資材投入基準 (10a当たり)		V 除草剤使用基準 (除草剤は周辺の水稲、その他作物のドリフトには十分注意する。)				O 生育期(全面散布) (10a当たり)				
	土壌改良資材名	基肥	使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量	使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量	
	精粒苦土石灰	100kg	○播種前 (10a当たり)				イネ科雑草3~10葉期	ポルトフロアブル (注意1)	200~300ml	100ℓ	
	塩化カリ	20~40kg	○播種後出芽前 (雑草発生前)	ラウンドアップマックスロード	500ml	50ℓ	大豆出芽直前~3葉期 (雑草発生始期~2葉期)	パワーガイザー液剤 (注意2)	200~300ml	100ℓ	
	スーパーマグ	20~40kg	◆雑草が少ない場合 (10a当たり)				大豆本葉2葉期~開花前 (広葉雑草生育初期~6葉期)	大豆バサグラン液剤(Na塩)	100~150ml	100ℓ	
			◆雑草が多い場合 (10a当たり)					アタックショット乳剤 (注意3)	30~50ml		
				使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量	(注意1) ポルトフロアブルはイネ科雑草10葉期まで効果はあるが、なるべく雑草が小さい内に散布する。また、水稲に飛散した場合は大きな影響がでるため、散布に当たっては十分注意する。 (注意2) パワーガイザー液剤はアサガオ類、ホオズキ、ホソアオゲイトウに効果がある。展着剤は使用しない。ポルトフロアブルとの10日以内の散布はしない。枯死までには至らなくても強い抑制効果がある。周辺作物へ飛散しないように注意する。 (注意3) アタックショット乳剤はアサガオ類に効果が高い。大豆の葉に葉害(褐変、縮葉、白葉等)が現れるが、新しい葉には影響がなく目立たなくなる。大豆の生育が不良等の条件では葉害を助長する恐れがある。周辺作物へ飛散しないように注意する。			
				播種後出芽前 (雑草発生前)	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	○畦間・株間処理 (注意4) (10a当たり)			
					ラクサー粒剤	4~6kg	-	使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
				播種後出芽前 (雑草発生前)	フルミオWDG 注)	5~10g	100ℓ	大豆本葉5葉期以降 雑草生育期 (広葉アサガオ類に効果大)	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ
					サターンパアロ乳剤 (※必ず2剤を混用)	600~800ml		(注意4) 畦間・株間処理剤は、大豆の本葉にかからないよう、畦間と株間に散布し、大豆の頭からかけないように注意する。			
				播種後出芽前 (雑草発生前)	フルミオWDG 注)	5~10g	100ℓ				
				ラクサー乳剤 (※必ず2剤を混用)	400~800ml						
			注) アサガオ類は、土壤処理剤のみでは抑えることが難しいため、生育期除草剤(大豆バサグラン液剤)や中耕・培土を組み合わせて、体系的に防除する必要がある。 注) フルミオWDGを使用した後は、専用洗浄剤(不活性化)を使用して散布機械等を洗浄する必要があるので注意すること。								
			VI 病害虫防除基準 (10a当たり)				VII コンバイン収穫				
			液剤	スタークル顆粒水溶剤 2000倍	150ℓ	対象病害虫	・汚粒発生防止のため、収穫前に雑草や青立ち株を抜き取る。 ・子実水分18%以下、かつ莢が“ポキッ”と折れ、2つに分かれる状態で収穫する。 ・収穫は莢水分の高い朝夕を避け、晴れた日の午前10時から午後5時の間に行う。 * 農薬に関しては令和6年4月現在の農薬登録状況に基づいて記載しています。				
				プレオフロアブル 2000倍	150ℓ						
				トップジンM水和剤 1000倍	150ℓ						

II 施肥基準 (10a当たり)			
区分	肥料名	基肥	
大豆作付け初年目 麦作なし2年目	PK化成40号 (0-20-20)	20~40kg	
連作田・遅播き田 地力の低いほ場	ベスト444 (14-14-14)	10~15kg	

III 播種時期と栽植密度及び播種量			
播種月日	6月下旬	7月1~20日	7月20~31日
条間	70cm	70cm	70cm
株間	30cm前後	15~30cm	11~15cm
m ² 当たり株数	4.8株前後	4.8~9.5株	9.5~13.0株
播種量	3kg/10a前後	3~6kg/10a	6~8kg/10a

・播種時期は梅雨期間中にあたるため、天候に注意して作業を行う。

IV 種子消毒			
	農薬名	処理量	対象病害虫
種子消毒 (いずれかを使用)	キヒゲンR-2フロアブル	種子1kgに対して 20ml	紫斑病・ハト
	クルーザーMAXX	種子1kgに対して 8ml	ハト、ネキリムシ類、アブラムシ類、紫斑病等

I 土壤改良資材投入基準 (10a当たり)			
土壌改良資材名	基肥		
精粒苦土石灰	100kg		
塩化カリ	20~40kg		
スーパーマグ	20~40kg		

II 施肥基準 (10a当たり)			
区分	肥料名	基肥	
大豆作付け初年目 麦作なし2年目	PK化成40号 (0-20-20)	20~40kg	
連作田・遅播き田 地力の低いほ場	ベスト444 (14-14-14)	10~15kg	

III 播種時期と栽植密度及び播種量			
播種月日	6月下旬	7月1~20日	7月20~31日
条間	70cm	70cm	70cm
株間	30cm前後	15~30cm	11~15cm
m ² 当たり株数	4.8株前後	4.8~9.5株	9.5~13.0株
播種量	3kg/10a前後	3~6kg/10a	6~8kg/10a

・播種時期は梅雨期間中にあたるため、天候に注意して作業を行う。

IV 種子消毒			
	農薬名	処理量	対象病害虫
種子消毒 (いずれかを使用)	キヒゲンR-2フロアブル	種子1kgに対して 20ml	紫斑病・ハト
	クルーザーMAXX	種子1kgに対して 8ml	ハト、ネキリムシ類、アブラムシ類、紫斑病等

V 除草剤使用基準 (除草剤は周辺の水稲、その他作物のドリフトには十分注意する。)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
○播種前 (10a当たり)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
耕起前又 (雑草生育期)	ラウンドアップマックスロード	500ml	50ℓ
○播種後出芽前 (雑草発生前)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
播種後出芽前 (雑草発生前)	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ
	ラクサー粒剤	4~6kg	-
◆雑草が多い場合 (10a当たり)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
播種後出芽前 (雑草発生前)	フルミオWDG 注)	5~10g	100ℓ
	サターンパアロ乳剤 (※必ず2剤を混用)	600~800ml	
播種後出芽前 (雑草発生前)	フルミオWDG 注)	5~10g	100ℓ
	ラクサー乳剤 (※必ず2剤を混用)	400~800ml	
注) アサガオ類は、土壤処理剤のみでは抑えることが難しいため、生育期除草剤(大豆バサグラン液剤)や中耕・培土を組み合わせて、体系的に防除する必要がある。 注) フルミオWDGを使用した後は、専用洗浄剤(不活性化)を使用して散布機械等を洗浄する必要があるので注意すること。			
O 生育期(全面散布) (10a当たり)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
イネ科雑草3~10葉期	ポルトフロアブル (注意1)	200~300ml	100ℓ
大豆出芽直前~3葉期 (雑草発生始期~2葉期)	パワーガイザー液剤 (注意2)	200~300ml	100ℓ
大豆本葉2葉期~開花前 (広葉雑草生育初期~6葉期)	大豆バサグラン液剤(Na塩)	100~150ml	100ℓ
	アタックショット乳剤 (注意3)	30~50ml	
(注意1) ポルトフロアブルはイネ科雑草10葉期まで効果はあるが、なるべく雑草が小さい内に散布する。また、水稲に飛散した場合は大きな影響がでるため、散布に当たっては十分注意する。 (注意2) パワーガイザー液剤はアサガオ類、ホオズキ、ホソアオゲイトウに効果がある。展着剤は使用しない。ポルトフロアブルとの10日以内の散布はしない。枯死までには至らなくても強い抑制効果がある。周辺作物へ飛散しないように注意する。 (注意3) アタックショット乳剤はアサガオ類に効果が高い。大豆の葉に葉害(褐変、縮葉、白葉等)が現れるが、新しい葉には影響がなく目立たなくなる。大豆の生育が不良等の条件では葉害を助長する恐れがある。周辺作物へ飛散しないように注意する。			
O 畦間・株間処理 (注意4) (10a当たり)			
使用時期	除草剤名	使用量	希釈水量
大豆本葉5葉期以降 雑草生育期 (広葉アサガオ類に効果大)	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ
(注意4) 畦間・株間処理剤は、大豆の本葉にかからないよう、畦間と株間に散布し、大豆の頭からかけないように注意する。			
VII コンバイン収穫			
・汚粒発生防止のため、収穫前に雑草や青立ち株を抜き取る。 ・子実水分18%以下、かつ莢が“ポキッ”と折れ、2つに分かれる状態で収穫する。 ・収穫は莢水分の高い朝夕を避け、晴れた日の午前10時から午後5時の間に行う。 * 農薬に関しては令和6年4月現在の農薬登録状況に基づいて記載しています。			